

総会議案書



昨年の通常総会の様子

2022年 通常総会

[第17期 (NPO 法人化以降) : 2021年6月1日 ~ 2022年5月31日]

2022年7月31日 (日) 13:30 ~

Zoom ミーティング / 文京シビックセンター4F 区民会議室 B

目次

はじめに	P. 4
1号議案 2021年度活動報告	P. 6
全体報告	P. 6
地域交流会活動報告	P. 8
2号議案 2021年度決算報告	(別紙)
3号議案 2022年度活動方針(案)	P. 15
(1) 2022年度活動方針	P. 15
(2) 重点活動	P. 15
(3) 地域交流会活動計画	P. 17
4号議案 2022年度予算(案)	(別紙)
5号議案 定款変更(案)	P. 22

はじめに

代表理事 都筑 建

創立 20 年目の記念すべき総会にむけて

2003 年 5 月 24 日、東京・青山の国連大学内ウ・タントホールに、関東を中心に約 250 名の PV 設置者が集合し、太陽光発電所ネットワーク（当時は任意団体）の発足総会が開催されました。今年度は創立から 20 年目の記念すべき節目の総会となります。この 20 年という長きにわたる活動期間を 4 期に区分けすると、PV-Net が時代に合わせて再エネ普及に先駆的に企画・活動し、実績を築いてきたかを俯瞰することができます。

第 1 期 (2003~2006)	創立 / 内部体制整備 / 関東 8 地域交流会創設 / PV 健康診断システムの確立と相談室の充実 / PV-Green 事業化 / 愛・地球博「地球市民村」出展 / NPO 法人化
第 2 期 (2007~2011)	中部・関西・九州地域交流会創設 / 会員数 2,500 名達成 / 環境省「地域におけるグリーン電力証書の需要創出モデル事業」における自治体との連携 / 東日本大震災における被災 PV 実態調査
第 3 期 (2012~2017)	かながわソーラーセンターの運営 / FIT 制度の開始と電力自由化への対応 / 市民発電所建設の相談窓口「市民ファンドサポートセンター」の開設と支援（主な実績：岩手県野田村、長野県小諸市、秋田市大沢、静岡県伊豆の国市、香川県高松市ほか） / 熊本地震における被災 PV 実態調査 / 国立研究開発法人・消費者庁との PV の火災安全調査
第 4 期 (2018~現在)	認定 NPO 法人化 / 2019 年問題（卒 FIT）への対応 / 環境省「ブロックチェーン技術を活用した再エネ CO ₂ 排出削減価値創出モデル事業」において新たな環境価値取引の実証 / 地域主導の取り組み（主な実績：【東京】地方議会への請願・陳情活動、「あと 4 年、未来を守れるのは今」キャンペーンの立ち上げ、【静岡】マイクロインバータ普及活動、【兵庫】都市型小水力発電の建設、【千葉】ソーラーシェアリング事業、【埼玉】県との協働による市民共同太陽光発電事業） / 電気自動車向け充電・課金サービス企業との事業連携

こうして見ると、改めて時代の変遷の激しさに驚かされます。そして普及世界一を誇った国内の PV メーカーの姿は消え、わずか数社しか残っていない現状に言葉を失います。政府やメーカー、商社は、このような状況に至ったことの釈明をもっとするべきでしょう。そんななか本質的にプロシューマとして存在する PV-Net は、これからの「第 5 期」を迎えるにあたり、取り組んできた活動の歴史を検証し、今後の指針を切り開いていくことが必要となるでしょう。

コロナパンデミックとウクライナ戦争を直視して

2019 年後半から世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、都市や国境の封鎖によって人々の交流を遮断し、産業革命以来続いてきたグローバル経済の発展を閉じさせ、人間社会の営みを劇的に変えるなど、深刻な影響を私たちにもたらしています。

PV-Net の活動にも大きな変化と停滞をもたらしました。自宅で働くテレワークや、全国から集合して開催していた理事会もほとんど Zoom を利用するなど、リモートでの活動が日常となっています。移動に係る費用や時間を削減できる分、開催の頻度が増やせるといった点は大きなメリットである一方で、NPO 活動には欠かせない、理事や会員同士の感情のこもった会話や議論が難しく、充足感・連帯感が得られないまま苦慮しています。会員や企業・団体、行政などの関係先についても、コミュニケーション不足を感じます。また長期間、自宅にこもりがちとなることで、心身に不調をきたす恐れがあることも無視できません。

加えて今年 2 月 24 日から始まったロシアによるウクライナ侵攻は、コロナに劣らない深刻な影響を私たちに与えています。核の脅威にさらされた戦争の時代の出現、そして化石燃料価格の上昇に伴う電力の供給力不足や電気代の高騰は、再エネ普及や脱原発への風向きを一変させ、パリ協定の変質にもつながる動きがみられます。

「気候危機」を SDGs のトップに挙げるべきでは

私たちには信頼できる科学的データがあります。それは「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が発行する報告書です。第 6 次評価報告書（AR6）の統合版は本年の 9 月頃に公表予定ですが、すでに公表済みの第 1 作業部会（WG1）の内容については、執筆者の一人である国立環境研究所 地球環境研究センター副センター長の江守正多さんが YouTube で解説する「【速報版】IPCC 執筆者が独自解説！ 気候変動 国連最新レポート」でわかりやすく知ることができます。

これまでの IPCC 報告書では、温暖化の主な原因は人間活動である可能性が「高い」と表現されていましたが、AR6/WG1 では「人間の影響が気候システムを温暖化させていることは疑う余地がない」となり、初めて不確実性の表現が外れました。しかしこのような危機的な状況が科学者から報告されても、トランプ前米大統領のように都合のいいフェイクニュースを自らばら撒き、「パリ協定」から強引に米国を離脱させてしまうような風潮は目に余るものがあります。インターネットの無制限な拡大とともに、SNS 上には顔の見えない匿名の悪意が跋扈（ばっこ）しています。気候変動の解決も再エネの普及も、フェイクニュースとの闘い抜きには成就することはできません。このまま放置することなく、科学的な検証を重ね、情報をできるだけオープンにし、共有することが非常に大事な時代となっています。

SDGs には番号が付けられていますが、取り組みの優先順位でないと「気候変動に具体的な対策を」が 13 番目にあるのは、地球の、人類の、そして地域の課題優先度としては、はなはだ心もとない位置付けに見えます。17 の目標は同時に取り組むべきものですが、気候危機として逆戻りができない灼熱の地球上では、諸問題に取り組もうにも不可能なことは明らかです。取り返しのつかない時点に来てしまっただけでは遅いのです。「気候危機」の位置づけの重要性をもっと一人ひとりの段階で強く認識、共有すべきでしょう。

1 号議案 2021 年度活動報告

1. グリーンプロシューマの特色を活かした再エネ事業と普及活動の定着を

- ① 会員間で情報・モノ・サービスを取引する「PV モール」の開設
- ② 太陽光パネルの再利用の推進
- ③ PV プロシューマ活動の支援（セルフメンテナンスの推進、安心・安全な製品の提案ほか）

気候危機が深刻化するなか、これまで以上に太陽光発電への注目が高まっています。同時に太陽光発電に対する批判的な意見も多くみられるようになりましたが、それが誤りであることは早くから導入してきた皆さんの実践事例が証明しています。太陽光電の拡大において、PV-Net の役割はこれまで以上に重要性を増していくことでしょう。

消費者であり、生産者でもあるプロシューマが数多く参加する PV-Net を具現化する取り組みとして、会員同士で情報や PV 関連の部材、サービスを交換・販売できる取引交流のプラットフォーム「PV モール」のオープンを計画しましたが、**人的資源不足やシステム障害が解決できず開始できませんでした**。オープンに向け再挑戦するかは検討中ですが、会員コミュニティ内で経済圏をつくらうというコンセプトは、モールという形にこだわらずとも実現したいところです。

太陽光発電の課題の 1 つに廃棄問題があり、特に住宅用太陽光においては、ユーザーの費用負担が大きかったり、家屋解体に伴ってミンチゴミとして処分されてしまうケースが指摘されています。設置から 20 年を越える会員もいる PV-Net にとって、適正処理の事例を増やすことは社会的要請であり、**回収ネットワーク構築に向けた専門事業者との協議や、リユース・リサイクルへ誘導する仕組みづくりに、現在進行中で取り組んでいます**。

2. 再エネ（PV）自家消費時代への対処

- ① 生活防衛・災害対応に向けた自家消費型システムの開発・検討
- ② 会員の経験・実績を活かした各種調査、実践活動
- ③ 自治体や各種団体との連携による、地産地消型 PV 普及、災害対策としての再エネ活用の制度化

固定価格買取制度の終了や停電対策、そして電気料金の高騰により、自家消費に注目が集まっていますが、蓄電池はまだ高価なのが難点です。皆さまに有用な製品・サービスを紹介できるよう日々情報収集を行うなかで、現在は「**廃棄やメンテナンスの心配が無用なサブスク型の蓄電池**」「**自動制御で安く使える電源に切り替えるインバータ**」を扱う企業との協議が進んでいます。

会員の参加協力のもと、2018 年より実施している環境省「ブロックチェーン技術を活用した再エネ CO₂ 排出削減価値創出モデル事業」は最終年度を迎えました。今期は地域交流会が中心となり、全国約 200 の会員宅に PV 電力計測装置「EV06」を設置しました。5 月には、**各戸から集計された電力データを AI で解析し、予測した電力使用量を下回ることができたらポイントを付与する節電チャレンジや、節電から生じた余剰電力を電気が足りない他のエリアの住宅に仮想的に融通するといった実証実験を行いました**。この 4 年間は、私たちが目指す電力アグリゲーション（発電した電気を会員が同士でまとめたり、シェアする）実現の試金石としての取り組みになりました。

3. 地球温暖化防止に向けた協業の検討

- ① 再エネ普及に寄与する研究者や技術者との連携・協力
- ② カーボンニュートラル実現に向けて、多くの団体と協力した政策提言の運動の推進
- ③ PV プロシューマや RE100 企業、ESG 投資のニーズに合致した環境価値取引事業の再構築

訪問制限などが徐々に解除されたことで、企業や団体、研究者との会合が増えはじめました。成果の 1 つとして、**電気自動車向けの充電・課金サービスを手がける企業との事業連携を開始しました**。現在は技術的な協力が中心ですが、PV と EV を組み合わせた CO₂・電気代の削減や、災害時の非常用電源としての活用提案なども行っています。

太陽光発電の環境価値を取引する **PV-Green 証書**については、**例年になく問い合わせが多い年でした**。しかし再エネを取り巻く環境は以前と変わりつつあり、そのニーズに対応するにはこれまでの延長線ではない戦略が必要です。

4. 理事会と地域の連携による地域交流会活動の充実

- ① 広域エリアごとの主催による、拡大世話人会議の開催および未組織地域の連絡体制の構築
- ② 発電・会員データを活用した地域会員交流の充実
- ③ 世話人全体会議の開催を通じて、地域会員との連携や交流の充実に図る

新型コロナウイルスが広まった 2020 年度は、感染予防対策として否応なしにオンライン会議などを経験することになりましたが、時間やコストの削減というメリットも多く、理事会や各地の世話人会などでも積極的な導入が行われました。気軽に開催・参加できるのがオンライン会議の利点でしたが、2 年目を迎え、「**(対面型の会議に比べると) 集中力の維持が難しい**」「**(いつでもどこでも参加できるので) 参加のモチベーションが下がる**」といった課題を強く感じるようになってきました。こうした状況もあり、①や③で掲げたエリア間や世話人全体会議の開催は実現できませんでした。コロナ禍以降のコミュニケーション施策に正解はないため、これからも試行錯誤と改善を繰り返しながら取り組んでいきます。

5. 財政基盤の強化

- ① 事業の連携などによる賛助会員の拡大
- ② 認定 NPO 法人を活用した寄付の増大と定着化
- ③ 地域の自立に貢献する目的の助成金獲得

財政基盤の安定化のためには、「事業収益」「会費」「寄付」「助成金・補助金」をバランスよく調達することが重要です。特に会費や寄付の拡大については事務局だけで行うのは困難であり、理事や地域の協力・巻き込みが必要ですが、上記 4. で挙げた課題などを理由にその目標・方針は共有されず、思うような資金の獲得はできませんでした。

6. 事務局機能の強化

- ① クラウド会計の導入による、地域会計との一元管理化・効率化
- ② 情報発信力の強化
- ③ 財政と見合った人員補充

ここ数年の事業環境の変化を理由にスタッフ体制にも変化が生じました。それに伴い、引き継ぎ業務が増大し、情報発信力強化については実現できませんでした。その一方で、**外部の専門家や新たなスタッフの参画が実現できたことから、次年度に向け、事務局機能が大きく改善する兆しがみられます**。

地域交流会活動報告

前年に引き続き、地域交流会の活動は新型コロナに伴う緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の度重なる発令で、縮小を余儀なくされました。オンラインの活用が急速に進んだ一方で、世話人間や会員間の関係が希薄化・孤独化しているという声も届いています。リアル、オンラインを問わず、つながり続けるためのアプローチや、集える場を設けることが重要となるでしょう。

東北6県地域交流会

東北6県地域交流会という名前にふさわしい交流がなかった。コロナ禍で「東北6県」の広さを再認識しているが、「リアルで会えないならオンラインで交流すればよい」という単純な課題ではない。既存の会員が交流会に何を求めているのか状況把握が難しく、打開策が見つからない。

No.	2021年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	・東北6県全体リモート交流の推進 ・会員の状況把握	情報ネットワークで地域の課題を拾い上げ理事会につなぐ	・交流会を4回以上 ・全会員へメール発信	6県ネットワークへのML、Zoomの活用、個人宛メール				未実施	×	地域交流会活動の充実に向けた活動は未実施
2	東北6県地域交流会活動支援型発電所建設	活動資金、自主財源づくり ・11kW発電所1基稼働 ・ソーラーシェアリングを計画 ・「自立共生塾」立ち上げ	財源、拠点を自立する	情報提供/相談受付				未実施	×	1. 再エネ事業と普及活動・未実施 2. 自家消費時代への対処・未実施
3	会員への情報提供	マイクロインバーターやバッテリーなどの活用、メンテナンスなどの課題解決	情報発信 相談受付	通年				未実施	×	3. 地球温暖化防止に向けた協業は特になし 4. 財政基盤強化・特になし
4	活動全体を通じて新規会員の獲得声かけ	自立した会員を増やすことで全体の底上げを図る	新規会員5名/年の獲得	青森 山形	宮城 福島	秋田 岩手	フォロー	0名	×	理事として、青森・山形各1名、岩手との3名体制になった(交流会の世話人は未定)

群馬地域交流会

群馬地域交流会では、①セミナー ②広報 ③技術支援 ④世話人会拡充の4チーム編成とし、新型コロナウイルス感染症の事態の推移を見定めつつ、参加しやすい事業環境づくりに務めて行くことを目標にしてきましたが、相次ぐ「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」により著しく行動が制限されたことから活動の停滞を余儀なくされました。

No.	2021年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	4回/年	通年					×	
2	世話人の学習機会の保証	地域活動の活性化	4回/年	通年					×	
3	見学会の開催	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	1回/年						×	
4	世話人会の拡充	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	世話人会確保(1～2名)	通年					×	
5	広報活動の強化	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	4回/年	通年					×	
6	セミナーの開催	地域活動の活性化	2回/年						×	

【年間評価】◎：目標を達成(達成率120%以上) ○：目標を達成(達成率100%以上) △：目標未達(達成に向け改善可) ▲：目標未達(改善不可) ×：実施されず

埼玉地域交流会

2021 年度は全体としてまずまずの活動ができました。フォーラムをリアルと Zoom で開催し、体験談などを通じて情報共有を図りました。イベント参加では子どもたちにエネルギーを生み出す体験を通じ、省エネの大切さを感じてもらうことができました。

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題の最新動向。2020 年以降の会員の情報交換共有	年 1 回 開催		会場 & Zoom で開催実施			1 回	○	コロナを考慮し、会場 & Zoom での開催を行った (11/6 参加 18 名)
2	見学会 「見学場所を計画中」	太陽光発電などを含めたエネルギー効率の啓発	年 1 回 以上					0 回	×	コロナ感染拡大のため計画できず
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	年数カ所	年数カ所を予定				0 回	×	コロナ環境悪化で開催できず
4	自治体などのイベント 参加	県・市町村・環境団体主催のイベント参加による PV-Net 活動の周知、会員拡大	5 イベントに参加	通年				3 回	△	8 月：ニヤおざね祭り 12 月：SDG's フォーラム 5 月：エコライフフェア熊谷 コロナでの中止で、参加回数減
5	児童・園児・父母対象 の環境学習開催	・自然エネルギーの普及啓発 ・将来への投資	県内 数カ所	随時				3 件	○	7 月ほしのみや幼稚園 (七夕)、8 月桶川東放課後児童クラブ、3 月大牧教会館
6	・市民発電所の維持管理 ・スイッチング推進 ・発電量の計測および健康診断による発電量チェック ・新規発電所の設置	・PV 設備のメンテナンス ・パワーシフトの推進 ・PV の普及・啓発	新設 1 カ所	随時				新設 0 件	△	3 件の発電所の健康診断、障害対応を実施した(ほしのみや、桶川、大牧)EV06 設置支援 28 件
7	世話人会の開催	地域交流会の運営 (当面 Zoom で開催)	定例開催 (第一土曜)	通年				12 回	○	リアル開催：1 回 Zoom 開催：11 回
8	NEWS (さいたま通信) 刊行継続とホームページの運用	・発電量の近隣比較の広報と PV 健康診断への入力促進 ・イベントなどを地域会員に知らせ、参加につなげる	2 ヵ月毎	通年				7 回発行	○	特別号発行 (12 月フォーラム号)

千葉地域交流会

新型コロナウイルス感染拡大の影響でリアルな世話人会が開催できなかった。Zoom 世話人会は開催できたが、具体的な取り組みには至らなかった。太陽光発電量分析委託事業収入は増収となった。リネットちばへの参加は継続できている。イベント出展はリアルがなくなり、浦安市環境フェアのポスターセッションとエコメッセちばのオンライン出展 (動画配信) となった。

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	・情報交換 / 共有 ・Zoom 会議の導入	2 回 / 年 開催	通年				5 回	△	各世話人の近況報告 情報共有、意見交換が主
2	自然エネルギーを広めるネットワークちば定例会	・定例会へ参加 ・情報交換 / 共有 ・他団体との連携	12 回参加 イベント共催	通年				11 回	○	情報共有、意見交換ができた
3	市民エネルギーちば株式会社から業務委託	・ソーラーシェアリング発電所の発電量分析 / 報 ・知見を得る	13 発電所 分析	通年				17 設備	◎	設備数は順調に増え、委託料も増額している
4	イベント出展	・PV-Net の PR ・PV / 卒 FIT 無料相談 ・最新情報の発信	2 回 / 年 出展	7 月	10 月			2 回	△	浦安市環境フェアポスターセッション エコメッセちばオンライン出展
5	セミナー開催	・再エネ/省エネ全般 ・卒 FIT 処方箋紹介	2 回開催	通年				0 回	×	

【年間評価】◎：目標を達成 (達成率 120%以上) ○：目標を達成 (達成率 100%以上) △：目標未達 (達成に向け改善可) ▲：目標未達 (改善不可) ×：実施されず

東京地域交流会

コロナ禍でオンライン中心となり、モデル地域での取り組み強化や「ふつうの市民」とのコンタクトは今ひとつ。杉並では新しいつながりができた。講演会は2部の Activist トークも好評だった。

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	温暖化啓発	気候危機の理解者を増やす >政策提言賛同者	【講演会】 全国 1000 人 学習会 300 人	講演会：1部江守氏。2部 Activist パネル。どちらも好評。／上映会&温暖化講座=月2回オンラインは全国。都内の地域 NPO、パル連携				講演会 290 人 上映会&講座 350 人	△	講演会=再エネ NPO や生活クラブの協力を得てまずまずの集客。オンライン講座=普通の市民の集客は難しい
2	再エネ普及	【住宅ソーラー&蓄電池普及】再エネ新電力へスイッチ。収益事業として	設置 5 人	業者紹介など積極的に営業アピールしなかったこと、再エネ系企画参加者の向学のための参加もあり、プラン提案依頼ゼロ				講座申込み 100 設置ゼロ	△	セカンドオピニオンの立場を維持しつつ、設置検討への誘導をより積極的に
3	地域連携の促進	多摩エリアを中心に、気候・再エネ～SDGs 関連市民団体の連携促進（啓発～政策提言）	年 2 回 交流会 組織検討	三鷹周辺交流会：8月 / 2月；連携検討 武蔵野・三鷹・小金井で交流会 環境省地域循環共生圏 PF 事業→企画相互告知のプラットフォームづくり				む～・みたか = 戦略志向 が共有できない PF 事業：連 携づくりまでは 良いがその先の 事業に自治 体が△	△	PF 事業で東大和市、小平市などと情報交換はできた。GLP 事業で協力依頼。西荻オトナカ大作戦は戦略的なのにポップ。連携強化したい
4	政策提言	「あと4年」連携=エネ基改定 都内地域拡大：350・FFF 三鷹：気候市民会議	エネ基陳情 10 地域	①「あと4年」… エネ基意見書署名集め ②市議会陳情…エネ基意見書陳情（武・三）／市の対策加速（武・三・小）				242 筆 エネ基陳情 = 1 市採択 市の対策 = 3 市全会一致	△	石炭火力廃止を含む国への意見に三鷹公明党が賛成に転換。市議会の温暖化への関心は高まってきた感
5	イベント出展	コロナ終息すれば。 オンラインイベントもチェック	検討中	・みたかエコマルシェ出展、三鷹台イベント手伝い ・自転車発電貸し出し				自転車発電 は人気。その 時だけで終わ る。	○	イベントでコンタクトできた人を次に誘導と場づくりが課題
6	再エネ CO2 削減価値 計測モニター開発支援	計測器の取り付け支援。実証実験へ	10 名	地域会員、過去の設置支援者のうち PV 設置者への呼びかけ～設置支援				参加 10 人？ 取り付け出張 2 人？	○	学習会などの参加者名簿に PV 有無情報付加も検討
7	ペラダ発電工作教室	講師体制、啓発組み込みなど抜本検討	検討中	コロナで地域団体からの依頼なし				-	-	ポータブル蓄電池紹介の方向へ

神奈川地域交流会

コロナ禍においても以下の活動を実施した。

- ・ ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行しメールにて配信。2022 年 6 月で 85 号を発行
- ・ YES (エコハマ・エコ・スクール) と共同で青少年への環境教育を実施。ソーラーバッタを活用
- ・ ワークショップ「出前発電所を作ろう！」を年数回開催、参加者は可搬型太陽光発電装置を自作し、日常的メンテナンスも可能とする
- ・ 会員への情報共有と神奈川の活動を地域 HP (<http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/>) で紹介

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム PV かながわ 2022 を開催	2050 年にカーボンニュートラルは可能か?～脱炭素への太陽光発電の役割～	年 1 回				4/10	年 1 回	◎	講師を含めオンライン、サテライト合計 46 人参加、サテライト会場はスタッフ (佐藤、北村、押見、田辺) を入れて 6 名参加で、広報を広げた割に少なかった。サテライト会場はスタッフを除いて参加者が 2 名と少なく、次回以降オンライン開催の場合でサテライト会場設置は検討要
2	ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行しメールにて配信	タイムリーな話題や毎月の発電量の近隣比較などを会員へ提供し情報の共有を図る	12 回 / 年	通年				月 1 回 発行	◎	毎月執筆者を決めて発行するのは負担だが、継続が大切。読者からの反響も出ている
3	ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催	会員、一般の希望者を募集して開催	年数回						—	部品調達ができず、開催を見送った
4	地域のイベントに参加	①ソーラーバタフライなどを活用し、青少年への環境教育を目的に出展 ②市民への太陽光発電啓発の展示「太陽光発電をもっと暮らしの中に」		①JR 保土ヶ谷駅展示スペース出展 (まなぶん祭り企画、2/4～16) ②相模原市立環境情報センターイベント展示 (11/15～20)					△	新型コロナウイルス感染拡大のため、多くのイベントは中止
5	出前授業など環境教室を実施	さがみはら地球温暖化対策協議会の出前講座で講師 (ソーラーランタン工作、地球温暖化〇×クイズ、食品ロス、SDG s など)		11/14、12/18、2/26、3/18 (12/18 以外はオンライン講座)					△	新型コロナウイルス感染拡大のため、多くの環境教室は中止
6	地域ホームページの運用 http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa	会員間の情報共有と PV-Net 神奈川の活動を紹介	随時	通年				随時 更新	○	コメントは少なく、情報が一方通行の感がある。
7	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地域交流会活動の企画、計画の立案、実施	毎月 開催	通年				月 1 回 オンライン開催	○	オンラインでも出席者が少ないのが悩み

山梨地域交流会

2021 年度は、コロナ禍の影響で活動がさらに縮小しましたが、ヴァンフォーレ甲府のホーム戦での PV-Green の活用は継続してできました。

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	イベントの開催 (ライトダウンやまなし八代会場)	・市民立共同発電所を活用してイベントを開催 ・PV-Green の利用普及	年 1 回の ライトダウン開催		11/6				△	イベントの開催はできなかったが、消灯呼びかけなどを行った
2	PV-Green を活用したサッカーJ2 ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム開催をはじめとする PV-Green の普及	一般県民に対し、PV や PV-Green のさらなる普及を図る活動の展開	年 1 回以上		9/4				○	NPO 法人みどりの学校の協力のもと、9/4 ヴァンフォーレ甲府ホーム戦にて 2400kWh の PV グリーンの活用が実現し、1.1 トンの CO2 削減につながった
3	「広がれ！小瀬エコスタジアム実行委員会」に協力し、小瀬エコブース担当	子どもをはじめとする市民に太陽光発電の啓発活動の展開	年 1 回	新型コロナウイルス感染防止のため行なわれなかった					×	
4	役員会の開催	活動の展開	—		10/13				△	小規模な打ち合わせのみ
5	・会員の拡大 ・学習会の開催	PV のさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて	通年 					△	・PV-Green については啓発できた ・山梨県内では、大規模太陽光発電の影響により太陽光発電設備についての誤解が生まれているので、その解消のために様々な場で発信している

静岡地域交流会

①世話人会は 5 月以外は定期的に実施 ②EV06 設置後のアフターフォローが不十分だった ③掛川市への提案が採用されず地域交流会としては交流ができなかった ④マイクロインバーターの活用方法を明確にできず普及に至らなかった

No.	2021 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年 1 回)	・新たな地域会員の獲得による会の活性化 ・掛川市におけるグリーンファイナンスの取り組み	会員増 10 名	掛川市				—	△	・会員 1 名増加 ・「掛川 SDGs×地域課題解決プログラム 2021」応募…不採用
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施 1 回					—	▲	なし
3	行政・自治体活動 社会活動への参画	・活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・関連周辺視野の拡大	参画 6 回	EV06 関連事業				—	◎	・6 月より EV06 設置事業着手 ・会員への電話通知、世話役の協力による設置者増加、掛川市周辺地区を重点とし掛川市との関係強化を図った
4	市民共同発電所 運営管理、建設	・会の活動費の確保 ・管理・設備保守、看板付け替えなど	—	2 回	2 回		1 回	5 回		草刈り
5	保守メンテナンスを通じた会員へのサービス提供	・地域会員の結束強化 ・会員の保守意識の向上 ・保守技術の向上 ・マイクロインバーターおよびバッテリーの普及	—					—	▲	コロナの影響による行動制限
6	世話人会の開催	・地域の結束強化、地域活動の活性化 ・世話人 18 名体制と拡充	開催 12 回	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom	11 回	△	Zoom 5 月未開催

【年間評価】◎：目標を達成（達成率 120%以上） ○：目標を達成（達成率 100%以上） △：目標未達（達成に向け改善可） ▲：目標未達（改善不可） ×：実施されず

中部地域交流会

混迷する世界。私たち中部世話人会は「つながりあう中部」を目指して活動を続けてきました。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	・世話人の拡大 ・会員間交流、関係団体などとの連携	毎月 開催	3回 ○	3回 ○	3回 ○	3回 ○		○	LINE や Zoom を活用し会員間交流拡大に勤めました
2	市民共同発電所建設の推進・検討	持続可能な暮らしづくりの一歩となる、会員による発電所建設議論の共有化	毎月 報告	3回 △	3回 △	3回 △	3回 △		△	世話人会の前半は、PV モール活動具体化に暗中模索。後半はマイクロインバータ>理解>設置>PV モールでの商品化へ
3	MY パワー運動との連携強化を図る	見学・交流を通じて、「自分だけの利益」から「みんなの利益」の実践を現地で学ぶ	年 1 回		10/18				△	確実に実績を積み上げる MY パワー運動の素晴らしさを体感しただけの 1 年でした

京都地域交流会

世話人が集まらず活動が困難な状況。参加要請を関西に広げても、集まらない状況は変わらなかった。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	関西（滋賀・京都・大阪・奈良）として活動	地域を広げた状態で活動打合せ呼びかけするも無反応						—	×	4 府県ともほぼ無反応
2	勉強会開催	たんたんエナジー様活動報告と FIT 後の太陽光発電電気の供給形態	1 回/年				6月	1 回	△	根岸様の協力を得てオンライン開催までこぎつけた
3	本部事業協力	電力シェアリング環境価値計測器取り付け	1 件/年					—	△	約 10 件。いろんなケースあって素人だけで対応は難しかった

兵庫地域交流会

兵庫県民を対象に、「持続可能な地域社会の実現」をテーマとしたフォーラムを開催し、再生可能エネルギーの普及を支える社会づくりにつながるような情報を提供できた。また、小水力発電によるクリーンな電力が利用されることで、都市近郊における脱炭素地域づくりに貢献し、地域資源の有効活用を目指した活動ができた。令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰で大賞を受賞した。

No.	2021年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	・県民向けセミナー、フォーラムを開催 ・環境イベントへの出展	再生可能エネルギーの普及	参加者 80名以上		ひょうごエコフェスティバル 10/16, 17 竣工式&自然エネルギー講演会 11/6	フォーラム 12/4		参加者 講演会 49名 フォーラム 78名	◎	新型コロナウイルス感染拡大の状況にあり、フォーラムを会場・オンラインのハイブリッド開催。
2	神戸市灘区水車新田における小水力発電事業	自ら再生可能エネルギーの創エネを実践する	安定稼働 収益事業化	通年				コープ電気経由で地産地消開始 視察者・見学者多数受け入れ	△	補修、改造費用が発生し、初年度売電収入の大幅な低下となった
3	小水力発電設備設置エリアの里山林整備と活用	・環境に関する「学びの場」「憩いの場」作り ・関連団体との協業	近隣住民の参加イベント 毎月開催	通年				小水力発電所敷地内 里山整備活動月次実施	◎	・チェーンソー講習会開催 ・山林資源の活用を模索(新割、巣箱作など) ・植生調査実施(神戸大学農学部黒田教授)
4	太陽光発電の発電に関する情報提供	地域会員の会員満足度アップ	メール、FBでの情報提供	通年				—	○	共同ソーラー発電所発電の状況報告 Facebookでの活動報告
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月開催	通年				毎月開催	◎	世話人の積極的な参画により活動の企画、推進がスムーズに実施できた

3号議案 2022年度活動方針（案）

（1）2022年度活動方針

気候危機回避と、安全安心な地域社会構築をめざす

- ・ 国内の SDGs を推し進める自治体や企業、協同組合など、各種団体と連携し、表題のテーマで地域のオピニオン形成と運動化を進め、実態ある成果をつくります。
- ・ 今後も発生が予測される深刻な気象・地震災害に対する有効な対応策として、地域や住民に対して、再エネ・蓄電・EV 活用などの普及による事前予防を平時から浸透させます。

（2）重点活動

1. 地域活動の意義と展望を明確に

地域会員・世話人をベースとした地域活動を進めるにあたり、PV 設置者にとって身近な地域や自治体との連携、再エネ活用や普及のためのポイント付与の活用や IT 活用の共有化などを展開します。

2. 気候危機の緊急性の発信

気候危機に対して PV-Net としての意思表示を明らかにし、地域や自治体とその認識を共にしながら政策転換を促します。

3. 再エネ普及に関する調査・研究活動

PV プロシューマの実態について、「セルフメンテナンスの実効性」「次世代への PV 継承の実態とその可能性」といったテーマで調査し、その結果や先駆的な事例についてウェブサイトなどで公表していきます。また調査をもとに、若者などの新しい共感を起こしたり、連帯の働きかけを行いながら、会員化を呼びかけていく運動へとつなげます。

4. 「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業」の推進

環境省が今年度より開始する「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント（GLP）』推進事業」に採択されました。日本の CO₂ 排出量の約 6 割が衣食住を中心とした家計関連からであり、日本が掲げる 2030 年 46%削減、家庭部門では 66%削減という目標達成に向けては、国民の大幅なライフスタイル転換が必要です。本施策は「消費者の環境配慮行動」に対してポイントを発行する取組みで、ライフスタイル転換を加速させることを目的としています。PV-Net のプランでは、「ソーラー・蓄電池の導入支援」「再エネ新電力への切り替え」「パネルのリユース・リサイクル」をポイント発行の環境配慮行動活動としており、これまで限定的に取り組んできた活動を恒常的な事業にすべく、注力していきます。

5. 新しい地域市民共同発電所の可能性の検討

地域新電力などとの連携から、FIT 後の“新しい地域市民共同発電所”建設の実現可能性を探ります。

6. 環境価値取引事業の今後に向けて

非化石証書や J-クレジット、グリーン電力証書といった環境価値取引制度について、今後も大きな変化（電気計量制度の合理化、ブロックチェーン技術の活用、国際的動向など）が予測されます。情報収集を図るとともに、グリーン電力証書事業の変革も視野に対処していきます。

7. 新たな PV リユース・リサイクルの仕組みづくり

国内の PV リユース・リサイクルの取り組みは、10kW 以上の事業用ソーラーの FIT 期間が切れる 2032 年以降としていました。ところが住宅用 PV ではすでに廃棄などが現実的な問題として起こっており、ほとんど実態調査もされないままに処理されてしまっているのが現実です。過去には震災被災地でリサイクル処理の対応を手がけたこともありましたが、GLP 事業の一環として本格的に取り組んでいきます。また欧州では「PV サイクル」という先駆的な回収の仕組みが動いており、2021 年には日本部門がスタートしました。PV-Net も同組織と積極的に連携していくよう話を進めています。

8. 再エネ利用の拡大に向けた取り組み

分散型の再エネ電力を個々に集め、小売電気事業者などに供給する事業者をアグリゲーター（特定卸供給事業者）といいます。PV-Net も将来、会員の電力を集約したり、会員間で電気を融通することを志向しており、その準備段階として今年度の GLP 事業のなかで、地域と関わりのある新電力と連携による「小売電気事業の取次・代理店」事業を行うことを計画しています。

9. 2030 年（2050 年）活動ビジョンの策定

PV-Net は 2023 年 5 月に創立 20 周年を迎えます。1.5 度目標達成の指標でもある 2030 年、2050 年に向けて、理事会、地域交流会を交えながら約 1 年間をかけ、活動ビジョンを策定していきます。

(3) 地域交流会活動計画

この2年半、以前の日常が戻ることを願い、活動してきましたが、季節による変動やウイルス自体が変異を繰り返す新型コロナの特徴を鑑みると完全な終息は難しいでしょう。「With コロナ」を前提とした、新たな取り組みに積極的にチャレンジするタイミングかもしれません。

東北6県地域交流会

東北6県地域交流会という名前にふさわしい交流に取り組みたい。既存の会員の状況を把握して交流につなげていき、新規会員の入会が増えるような取り組みと合わせて実施したい。広い「東北6県」。つながるには、メーリングリスト（ML）、Facebook、Zoomなどのオンラインも活用する。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	複数の問題を一気に解決する運動を起こす	さまざまな問題の一つひとつと取っ組み合う代わりに、それらの問題の根っこにある根本的な原因を明らかにし、グローバル・システムへの依存から抜け出し、地域の相互依存を再構築するために、協力し合う。	運動の参加人数	通年				すべて
2	会員が求める情報を把握して提供できること	関心事を把握して、関心事一つに最低でも、一人の講師または一つの資料を探す	一つ以上	情報提供／相談受付				3.再エネ普及に関する調査・研究活動
3	PV-Net 発プロジェクトの横展開	各プロジェクトやイベントなどの関心度の把握	参加人数と関心度					すべて
4	・各県の会員を知る ・活動全体を通じて新規会員の獲得声かけ	自立した会員が、相互依存する関係を目指す	主体的な参加人数	青森 山形	宮城 福島	秋田 岩手	フォロー	1.地域活動の意義と展望を明確に

群馬地域交流会

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の終息状況を見極め、再度つながる事を目標に、①世話人会の再開 ②広報活動の再開の2点に絞って活動していきます。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	地域の結束強化 地域活動の活性化	2回/年	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
2	広報活動の強化	地域の結束強化	4回/年	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に

埼玉地域交流会

2021 年度に引き、県内各種団体とコラボした環境イベントに参加し、省エネと環境問題対応行動が必要であることを子どもたちに気付いてもらう活動を実施する。また会員には引き続き、卒 FIT 後の相談と、自主点検の実施の提案および情報発信を行っていく。（全ての活動はコロナウイルス活動規制が解除されたのちに具体化を考える）

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題の最新動向。 2021 年以降の会員の情報交換共有	年 1 回 開催			年度後半を予定		2.気候危機の緊急性の発信
2	見学会 「見学場所を計画中」	太陽光発電などを含めた エネルギー効率の啓発	年 1 回以上			年度後半を予定		1.地域活動の意義と展望を明確に
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	1 回以上	年数カ所を予定				1.地域活動の意義と展望を明確に
4	自治体などのイベント参加	県・市町村・環境団体主催のイベント参加による PV-Net 活動の周知、会員拡大	2 イベントに 参加	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
5	児童・園児・父母対象 の環境学習開催	・自然エネルギーの普及啓発 ・将来への投資	県内 数カ所	随時				1.地域活動の意義と展望を明確に 2.気候危機の緊急性の発信
6	・市民発電所維持管理 ・スイッチング推進 ・発電量の計測および 健康診断による発電 量チェック ・新規発電所の設置	・ PV 設備のメンテナンス ・パワーシフトの推進 ・ PV の普及・啓発	新設 1 カ所	随時				3.再エネ普及に関する調査・研究活動 5.新しい地域市民共同発電所の可能性の検討
7	世話人会の開催	地域交流会の運営 (Zoom 開催中心)	定例開催 (第一土曜)	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
8	NEWS (さいたま通 信) 刊行継続とホーム ページの運用	・発電量の近隣比較の広報と PV 健康 診断への入力促進 ・イベントなどを地域会員に知らせ、参加に つなげる	2 カ月毎	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に

千葉地域交流会

太陽光発電の発電量分析委託事業は、今後も設備が増える見込みのため収入増が期待できる。講師派遣は機会があれば積極的に要請を受け、地域収入に充てていきたい。卒 FIT セミナーは開催要請があれば対応していく方針。高齢者へのワクチン接種が完了すれば、リアル世話人会の開催も可能になると考えている。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	・情報交換／共有 ・ Zoom 会議の導入	12 回／年 開催	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
2	自然エネルギーを広める ネットワークちば定例会	・定例会へ参加 ・情報交換／共有 ・他団体との連携	12 回参加 勉強会講師 参加	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
3	市民エネルギーちば 株式会社から業務委託	・ソーラーシェアリング発電所の発電量分 析／報告 ・知見を得る	20 発電所 分析	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
4	イベント出展	・エコマセちばオンライン出展（動画配 信） ・浦安市環境フェア	2 回出展／年		10 月		5 月	1.地域活動の意義と展望を明確に 2.気候危機の緊急性の発信
5	セミナー・勉強会開催	・卒 FIT 実践事例紹介 ・再エネ／省エネ全般 ・気候変動	1 回開催					2.気候危機の緊急性の発信

東京地域交流会

2025 年に向けた 1 年目。環境省「グリーンライフ・ポイント（GLP）推進事業」への協力を自治体や NPO、生協などに呼びかけ、地域主導で啓発～再エネ拡大～市民の政策提言力アップを図る。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	温暖化啓発 ・自治体・生協・NPO などで学習会 ・GLP 協力呼びかけ	自治体などに関心高い人 イベントなど「ふつうの市民」 ★講師体制、育成	オンライン 1000 人 会場 300 人	自治体、生協ルートで講座／SNS で動画・クイズ エコマルシェ収 穫祭 RE100 イルミ				2.気候危機の緊急性の発信 4.「食と暮らしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業」の推進
2	ソーラー普及 ・住宅ソーラー設置 ・事業所 PPA	わが家で実施できる脱炭素対策の普及。 長期経済メリット（値上がりナシ）、非常 用電源訴求。	10 人	ソーラー & 蓄電池入門… 自治体、生協、NPO				2.気候危機の緊急性の発信
3	再エネ電気普及	温暖化啓発、ソーラー普及の取り組みの 中で紹介	50 件	温暖化学習会、ソーラー & 蓄電池入門				2.気候危機の緊急性の発信
4	地域連携の促進 再エネ～SDGs 関連市 民団体の連携プラット フォームづくり	各団体の企画告知範囲拡大 コラボ企画による集客範囲拡大	10 団体 ×2 エリア	武蔵野三鷹界限、東村山界限				1.地域活動の意義と展望を明 確に
5	政策提言	地域・国の温暖化対策を自治体に提案 =「〇〇市民提言」 2023.4 統一地方選に向け脱炭素議 員・首長を見える化	市民提言 →市議選 10 地域	市議会陳情 12 月 → 4 月地方選へ提言 都内の再エネ NPO などへの呼びかけ 西東京市議選 統一地方選				2.気候危機の緊急性の発信
6	イベント出展	コロナ終息すればリアル。 オンラインイベント調査	検討中	むさしの エコリゾート	みたか マルシェ	RE100 イルミ		1.地域活動の意義と展望を明 確に

神奈川地域交流会

コロナ対策のワクチン接種が進めば、活動がより活発化することを望む。

- ・ ニュースター「PV かながわ」を毎月継続発行し、会員への情報提供を行う
- ・ 年数回ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催
- ・ YES（エコハマ・エコ・スクール）と共同で、出前授業を実施（6 月以降イベントの活性化を期待）
- ・ 地域ホームページの運用（<http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/>）

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム PV かながわ 2023 開催を検討	2050 年カーボンニュートラルへ向け何がで きるか？（仮）	年 1 回					2.気候危機の緊急性の発信
2	ニュースター「PV かな がわ」を毎月発行し、メ ール配信、Web に公開	タイムリーな話題や毎月の発電量の近隣 比較情報など、会員への情報提供を行う	年 12 回	通年				1.地域活動の意義と展望を明 確に
3	ワークショップ「出前発電 所を作ろう！」の開催	部品の確保が課題。会員、一般の希望 者を募集して開催	年数回		10 月 30 日	未定	未定	1.地域活動の意義と展望を明 確に
4	地域のイベントに参加	ソーラーバッタやソーラーランタン、手回し発 電機などを活用し、青少年への環境教育 を目的に出展		横浜開港祭出展（6/2）、さがみはら環境まつり出展（6/19）、 さがみはらソーラークッカー工作（8/1）、さがみはらソーラーランタン 工作（7/29、8/5）、まなぶん祭り出展（11/15、16）、保土 ヶ谷区役所区民ギャラリー出展（まなぶん祭り企画、1/25～ 2/3）、JR 保土ヶ谷駅展示スペース出展（まなぶん祭り企画、 2/10～22）				1.地域活動の意義と展望を明 確に
5	出前授業を実施	YES（エコハマ・エコ・スクール）と共同で 環境教育を実施		横浜市野七里地域ケアプラザ出前授業（6/12）				1.地域活動の意義と展望を明 確に
6	地域ホームページの運行 http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/	PV-Net 神奈川の活動紹介と会員への 情報発信、コメントを活用した双方向通 信の検討	随時	通年				1.地域活動の意義と展望を明 確に
7	見学会開催の検討	近隣地区に拘らず環境関連設備を見学 し、最新の知識を得る		未定				1.地域活動の意義と展望を明 確に
8	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地域交流会活動 の企画立案および実施	随時	通年				1.地域活動の意義と展望を明 確に

山梨地域交流会

2022 年度もコロナ禍が予測されるため、活動のあり方を考えていきたいと思います。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	ライトダウンやまなしへの協力	・ 消灯の呼びかけ ・ PV-Green の利用普及	年 1 回の ライトダウン開催		11/19			1.地域活動の意義と展望を明確に
2	PV-Green を活用したサッカーJ2ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム開催をはじめとする PV-Green の普及活動	一般県民に対し、PV や PV-Green のさらなる普及を図る活動の展開	年 1 回以上	8 月頃				1.地域活動の意義と展望を明確に 6.環境価値取引事業の今後に向けて
3	Web (声澤・みどりの学校 SNS) 上での太陽光発電メンテナンス (パワコンのチェック、交換など) の啓発活動	太陽光発電維持のための正しい知識の啓発活動の展開	年間を通じて	通年				3.再エネ普及に関する調査・研究活動
4	役員会の開催	活動の展開	—					1.地域活動の意義と展望を明確に
5	・ 会員の拡大 ・ 学習会の開催	PV のさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に

静岡地域交流会

①セミナー・見学会等による会員交流を行いたい ②EV06 のアフターフォロー ③掛川市については先方にお任せ ④マイクローインバータの活用方法をパッケージ化し、比較検討及び補助金対象の周知により普及に努める

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年 1 回)	・ 新たな地域会員の獲得による会の活性化 ・ 掛川市におけるグリーンファイナンスの取り組み	会員増 10 名					1.地域活動の意義と展望を明確に
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施 1 回	未定				1.地域活動の意義と展望を明確に
3	行政・自治体活動 社会活動への参画	・ 活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・ 関連周辺視野の拡大	参画 6 回		3 件	2 件		1.地域活動の意義と展望を明確に
4	市民共同発電所 運営管理、建設	・ 会の活動費の確保 ・ 管理・設備保守、看板付け替えなど	—					5. 新しい地域市民共同発電所の可能性の検討
5	保守メンテナンスを通じて会員へのサービス提供	・ 地域会員の結束強化 ・ 会員の保守意識の向上 ・ 保守技術の向上 ・ マイクローインバータおよびバッテリーの普及	—	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
6	世話人会の開催	・ 地域の結束強化、地域活動の活性化 ・ 世話人 18 名体制と拡充	Zoom 会議 毎月第 2 水曜 開催予定	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に

中部地域交流会

SDGsを「ほどほどのススめ（中日新聞 1月1日付社説より）」として理解したいと思います。中部の活動は遅々として進みません。おかげで世話人会だけは持続しています。ありがたいことにLINE交流やZoomミーティングが徐々に活動の幅を広げています。本年度はLINEやZoomを活用した開かれた世話人会や、発電システム「たいよう君」の具体化を目指します。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	・世話人の拡大 ・会員間交流、関係団体などとの連携	毎月開催	3回	3回	3回	3回	1.地域活動の意義と展望を明確に
2	PVモールの具体化	マイクロインバータ活用 PVシステム 『たいよう君』セミナー開催	年5回	1回	2回	1回	1回	1.地域活動の意義と展望を明確に
3	MYパワー運動との連携強化を図る	見学・交流を通じて、「自分だけの利益」から「みんなの利益」の実践に学ぶ	年1回		○			1.地域活動の意義と展望を明確に

京都地域交流会

交流会活動を活性化させることが難しく、活動が行き詰まっているが、まずは一歩ずつできることから。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	今後も細々と勉強会を企ててみる		—	通年随時				1.地域活動の意義と展望を明確に
2	本部事業に対して協力を試みる			通年随時				1.地域活動の意義と展望を明確に
3	FIT制度がほぼ終了し、これからのPV-Net存在意義の議論が必要			通年随時				1.地域活動の意義と展望を明確に 8.再エネ利用の拡大に向けた取り組み

兵庫地域交流会

【地球温暖化防止啓発活動】

- ① 県民向けフォーラム、セミナーを開催
- ② 六甲川水車新田小水力発電設備を活用した視察者・見学者受け入れ

【里山整備と資源活用】

- ① 里山林として持続可能な仕組み作り
- ② 環境学習や憩いの場として活用

【六甲川水車新田小水力発電事業の推進】

- ① 安定した発電ができるように、保守メンテナンス体制の確立
- ② 事業の黒字化

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	県民向けフォーラム、セミナーを開催	再生可能エネルギーの普及	参加者80名以上	7月～8月		フォーラム12月		1.地域活動の意義と展望を明確に
2	神戸市灘区水車新田における小水力発電事業	自ら再生可能エネルギーの創エネを実践する	安定稼働 収益事業化	視察者・見学者受け入れ				1.地域活動の意義と展望を明確に
3	小水力発電設備設置エリアの里山林整備と資源活用	環境に関する「学びの場」「憩いの場」作り 若手会員増	近隣住民の参加イベント開催	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
4	太陽光発電の発電に関する情報提供	地域会員の会員満足度アップ	メール、FBでの情報提供	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月開催	通年				1.地域活動の意義と展望を明確に

5号議案 定款改訂（案）

定款変更案新旧対照表

改訂前	改訂案	変更理由
<p>(目的)</p> <p>第3条 本会は、太陽光発電設備を始めとする自然エネルギー利用設備の普及を促進するため、太陽光発電設備等自然エネルギーの利用に係る情報の交換、提供、意見の発表、その他の事業を行うことにより、京都議定書が人類共通の課題として掲げる CO₂削減による地球温暖化防止及び自然環境の保全に寄与することを目的とする。</p>	<p>(目的)</p> <p>第3条 本会は、<u>太陽光発電をはじめ環境と調和した自然エネルギー100%の社会づくりに取り組み、人類史上最大の環境問題であり次世代や途上国の人権に関する倫理問題でもある地球温暖化の緩和に寄与するとともに、災害に強い自立分散型エネルギー社会を公共性や市民参加の視点から構築していくことを目的とする。</u></p>	<p>地球温暖化防止に向けた世界の潮流や時代の要請、社会が直面する課題に対応すべく変更</p>

認定 NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-10 湯島ビル 602

TEL : 03-5805-3577 FAX : 03-5805-3588

www.greenenergy.jp